

第4学年 総合的な学習の時間

浅間台の緑をまちに広げよう ～住みよいまちにするために～

授業のポイント

本単元の妥当性について

本単元の材は、まちの一員としての自覚と愛着をもち、身近な環境をよりよくしていこうとする力を育てる素材となりえただろうか。また、支援の視点として欠けたところはなかっただろうか。

本時の授業コントロールについて

子どもの思いを十分に汲み取り、豊かな考えや活動を導く授業展開であっただろうか。

授業改善に向けての考察

より身近な材と具体的な取組

霜下公園は、確かに児童の生活環境の一つである。しかし、本学級の児童にとっては、学習の取組のきっかけにはなったものの、自分たちにとって、身近なものに感じられていなかったり、さほど必要性のないものだったのかもしれない。霜下公園の美化をきっかけにして、たとえば、より身近な学校などに学習の材の重点を当てた方が、より具体の追求に迫れたようにも思われる。

また、子どもたち自身から出てきたアイデアを元に、積極的に具体的な活動を大切に支援・指導することが私自身の課題であった考える。

環境に対する気づき・ねばり強い追求心からまちの一員としての自覚

本単元の学習活動を通して、以前に比べると、住みよいまちをつくらうとする意識は大きくではないかもしれないが、育てられたと思う。霜下公園に対する思いも、学習活動の初期は、みんなでごみ拾いをした、ただその時のみの充実感だった。しかし、年末に、愛護会の方のチューリップの球根を植えるのに立ち会えなかったことや、愛護会の吉田さんから「これからもごみ拾いを続けてほしい。」という願いを受け、子どもたちから継続的に週に2度、霜下公園にごみ拾いに行き続けようという声があがり、活動してきた。

これをきっかけに、徐々に自分たちのごみ拾いという美化活動そのものに、継続的な子どもたちの気づきや希望が見られるようになった。

しかし、単なるごみ拾いで終わるのではなく、子どもたちから出た“肥料作り”にもっと積極的に取り組むことができなかつたのは、私の指導力不足であり、課題として残る。

また、学校内の美化活動についても関心をもつことができ、教室の節電や校内の水道の整備、図書室の掃除等に取り組むことができた。食にかかわって、ごみについての学習をして、学級で給食の食べ残しを少しでも減らそうという意識も働き、毎日苦手なものでも頑張っただけで食べる姿が多く見られ、一人ひとりの食べ残しや好き嫌いは確実に減った。

このように、社会科のごみについての学習から総合的な学習の時間の住みよい、自分たちの生活を取り巻く環境への気づきと改善へのねばり強い追求心を子どもたちから少しでも引き出し、育てられたことに、私は学習の成果を見い出したいと思う。そして、これからも子どもたちのこの意識がさらに深まり、身近な生活・自然に愛着を感じて大切にしてほしい。未来のまちを支え、失敗しながらも果敢に問題解決していける人間に育ってほしいと願う。